

▲ 支部探訪ー帯広 支部長 佐藤 豊

例会作品は道新紙上に掲載

写協帯広支部は、昭和二十七年に北海道写真協会発足と同時に、十勝・帯広の写真文化の向上発展と会員相互の親睦を図ることを目的として設立されました。以来、原則として毎月二十二日に道新を会場にして支部月例学習会を継続してきています。

月例では、道展審査委員の大崎氏、辻川氏が隔月で審査に当たり、講評とアドバイスをしてもらいます。また、会員同士も作品作りについて積極的に意見を交換しあったりして、研鑽しています。月例作品の数は、講評とともに毎月北海道新聞に掲載されるので、大変励みになっています。支部の二大事業は、この月例会と写真道展帯広巡回展で、巡回展に合わせて行う支部秀作展です。各自四つ切二点以上を出品しています。その他、四月中旬に行われる帯広市民芸術祭に参加し、全紙二点の作品を展示して、帯広市民の皆さんに広く支部活動をアピールしています。



6月撮影会に参加



10月例会風景

年二回の撮影会・盛んな個展

現在の会員は十六名、内女性は二名です。決して多い人数ではありませんが、道展審査委員二名と会友三名、さらにベテランが会の中核を担っています。しかし、会の発展のためには一般会員を増やさなくてはならないという声が強くなり、昨年は春・秋二回の撮影会を行い、初心者や一般の方の参加を呼びかけました。撮影会の指導は、大崎氏、辻川氏と北海道新聞社のカメラマンの方にお願ひし、春は「ぼんば」の撮影会、秋は動物園で行い、撮影した作品を道新ホールに展示しました。その成果があつて、撮影会後入会した人や、例会の体験参加者が増え、新入会員の増員に結びつきました。

また、帯広・十勝には小さなギャラリーがあちこちにあり、個展を開く支部会員が多く、昨年は、辻川和夫、伊藤キヨ子、西島啓喜、梅津美政、浅野義博の五名の方が個展を開きました。一月中旬に総会を開いていますが、支部会費は今年から年額一万円となりました。会員が少

ない上に、巡回展の会場費が十一万以上かかるので、大変厳しい現状です。しかし、支部の活性化のために、学生会員は年額を千円として入会しやすくしましたが、残念ながら学生の入会者はまだいません。

好成績の写真道展

毎回会員の八割近くが応募している道展ですが、第五十四回展では、浅野さんが第二部で一席に輝いたのははじめ、多くの会員が入賞・入選の好成績を挙げました。

今後とも会の発展のために相互の研鑽を積んでいくことはもとより、広く市民にアピールして支部会員を増やし、写真の芸術文化に努めていきたいと、会員一同意欲を燃やしています。

紹介

阿部悦子写真展



「野付半島情景 —古木への想い」

日時 平成二十年三月十四日(金)～十九日(水)
会場 富士フィルムフォトサロン札幌
札幌市中央区北三条西三丁目一
札幌北三条ビル一F
(来年五月富士フオトサロン東京展予定)

展示点数 全紙 四十点

写真展によせて 写真を初めて間もない頃、荒涼とした風景に心惹かれ、十年余り道東に通い続けたものを、主に枯れ木を中心にとめてみました。

写真道展審査委員

林 啓さんを偲んで



平成十九年十一月二十七日、脳梗塞のため「苫小牧日翔病院」にて逝去。享年七十六歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。葬儀は「苫小牧シティホール」にて支部会員 友人が多数参加してしめやかに行われました。

糖尿病に人口透析と大変厳しい闘病生活を過ごされました。そんな中でも、人生の最後を家族の皆さんに迷惑をかけないように常に準備していると生前お話ししておりましたが、まさにそのとおりのご生涯だったと思います。

昭和三十三年より写真を始め、全国及び道内の各種コンテストに応募。朝日新聞主催の全国スポーツ写真コンテストでは、二年連続全国の最高賞を始め、約四百五十回の入賞、入選をされております。写真道展においては十年連続入賞、入選を果たし、平成四年に写真道展審査委員となり活躍されました。この間道写協苫小牧支部の支部長として支部の発展に尽力、また、写真道展の選考委員としても活躍され、平成十七年には北海道写真協会四十五周年記念において、功労賞を受賞されております。

氏は、現役時代は北海道警察の鑑識官として活動、写真のほかにも盆栽、庭造りの趣味をもたれ、また支部の懇親会ではカラオケが非常に上手でした。また、旅行が好きで、奥様、友人とスペインやイタリアなどを訪れ、病気にも負けず、写真も多数撮ってきておりました。

当支部としては、まだまだご指導をと思っておりますが、誠に残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。

苫小牧支部長 佐々木義道